

第3節 最終処分量の削減

ここで検討する取組は以下のとおりである。

基本方向6 産業・福祉・地域づくりと一体となったごみ減量化の推進

6-6(1) 廃プラスチック類等の有効利用に関する調査研究等

6-6(2) 事業者における廃プラスチック等の利用促進

① 現行ごみゼロプランの数値目標

現行ごみゼロプランでは、プラスチック類等の直接埋立量及び焼却残さ埋立量を、プラスチック製容器包装の分別収集による再利用の推進や焼却灰のスラグ化による再利用により削減していくことによる最終処分量の削減の数値目標を以下のように設定している。

表4-55 最終処分量の削減の数値目標

	短期 (2010(平成22)年度)	中期 (2015(平成27)年度)	最終目標 (2025(平成37)年度)
最終処分量 の削減率	46%	50%	100%
(最終処分量)	81千t	76千t	0千t

注) H18.2改定

② これまでの取組による数値目標の達成度の検証

平成20年度における最終処分量は70千tであり、短期の最終処分量の数値目標を十分に達成している。

表4-56 最近の最終処分量

	H18	H19	H20
最終処分量	83千t	84千t	70千t

③ 今後の目標設定(案)

最終処分量の最終目標は、現行のごみゼロプランにおける数値目標とする。また、中間目標については、近年における最終処分率(最終処分量を廃棄物の排出量で除したものは10%程度となっており、その数値と将来予測した廃棄物排出量から推計すると、2015年度の最終処分量は65,000トンと予測され、そこからさらに焼却残さ等の再利用により0.9万トン、ガラス・陶磁器くず等の再資源化により0.1万トン、計約1万トン減少させることによって、55,000トン为目标として設定する。

表4-57 最終処分量の削減の数値目標の見直し(案)

		短期 (2010(平成22)年度)	中期 (2015(平成27)年度)	最終目標 (2025(平成37)年度)
現行の 目標	最終処分量 削減率	46%	50%	100%
	(削減量)	81千t	76千t	0千t
目標 見直し (案)	最終処分量 削減率	(57%)	63%	100%
	(削減量)	(70千t)	55千t	0千t

注) ()内は2008年度実績値。